

令和 6 年度 県立土浦第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	自律的で責任感のある人間として、多様な価値観をふまえ協働して活動し、現代社会を生きるための柔軟な思考力・判断力・表現力をもって、客観的に分析・考察することのできる人材を育成します。 1 未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校 2 豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校 3 保護者や地域との連携を推進し、信頼される開かれた学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成 状況
1 国公立大学の合格者数は、7年連続で100人を超えた。生徒・保護者の進路希望をふまえ今年度も継続する。また、国公立・私立難関大学の合格者についても前年度以上に増加を図る。さらに、生徒の進路希望実現のための具体的方策を分析・検討するとともに、個々の学習意欲の向上と計画的な家庭学習の実践についての重要性を説き、確立を図る。 2 部活動参加率は80%と活発な活動が行われ、各種大会で優秀な成績を収めている。また、学校行事をはじめ、委員会やボランティア活動についても、生徒主体の運営体制の強化を目指す。	1 授業の充実と学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の工夫・改善により、新しい時代に必要となる「学びに向かう力、人間性等の涵養、生きて働く知識及び技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」の育成を図る。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> I C T環境を適切に活用した学習活動の充実を図るとともに、学びの保証に備えた多様な教育形態を強化する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価をより明確にしなが、年間指導計画に沿った授業展開と自学自習の習慣化を図り、自主学习時間を増加させる。自主学习時間の目安を、1年生3時間、2年生4時間、3年生5時間とする。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 担任と生徒の個別面談の推進（年間4回以上）。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の進路実現のために、平常日・長期休業中において、各学年・各教科の組織的・計画的な課外活動の実施。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 土曜講座・学習会を開講する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 学習室・多目的室（19時まで使用可）を開放、よりよい学習環境を構築する。 	A	
		2 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善推進チームを中心として、校内研修や学習会により、授業を振り返る活動を推進する。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> 「生徒の授業満足度」について、授業担当者の80%が評価平均3.5以上とする。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> 「DXハイスクール」事業を活用し、探究的な学習活動をより推進させる。 	B
3 年間3回の生徒個別面談週間、年間2回の保護者面談等を通し、保護者との連携を図りながら生徒の指導にあたっている。授業公開やホー	3 特別活動の充実と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム・委員会・部活動などの生徒の主体的活動を支援し、道徳的実践力を高める。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ルールやマナーを守る土浦二高生としての品格ある行動を確立させる。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒各自がスケジュールを管理し、自律的で責任ある生活習慣を確立させる。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 教室の清掃を始めとした校内美化活動を通して、奉仕の精神と豊かな心を育成し、安心・安全な学校生活を確立する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともにHRにおいて「キャリア・パスポート」を活用し、記録を用いた話し合い活動や意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。 	B	

<p>ムページ、グループウェア等を活用し、さらなる情報発信を推進し、本校の教育活動に対して、保護者や地域関係者の協力や理解を得ることを目指す。</p>	4 国際理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修を継続的に推進し、留学の受け入れや海外の教育機関との国際交流活動を積極的に取り組む。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・将来のグローバルリーダーとしての素養を培い、社会課題の解決に向けて、多様性を認めることができる国際人として自分ならどうするのかを考えさせる。 	B
	5 保護者及び地域との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談を計画的に実施してニーズに応える情報提供に努めることで、教育活動への理解と支援を得る。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校行事を創意工夫して、保護者の積極的参加を促す。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの定期的更新と広報資料（学校パンフレット等）の充実を図り、教育活動の情報を広く発信する。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の活用や高大連携の活動を充実させ、地域に発信する。 	B
	6 働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通理解を図り、新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制の構築し、限られた時間の中で教員の生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図る。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・業務のICT化を一層推進し、業務の効率化とペーパーレス化、類似業務の統廃合を行う。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域と学校の役割分担を見直すために、家庭や地域への情報発信を推進し、意見聴取しながら校務に反映させる。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・教員以外の専門スタッフ等の体制拡充と外部人材の活用推進。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・教材教具等の共有や外部の教育資源とデジタル教材の活用推進。 	B

令和6年度 教科・分掌・学年等の目標達成状況と課題					
評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上に努める。	教科書および文芸書、便覧等を活用し、古典についての基本的な知識を身につけさせる。	紙媒体の教材に加えてデジタル教材も利用し、また小テストにより習熟度を見極めながら、古典についての基本的な知識を身につけさせることができた。	A	A （1）継続的な基礎学力の定着。 （2）新課程の共通テストを見据えて、新傾向対策の方策。 （3）生徒のタブレット活用を含ICTの活用の方法及び定着。 （4）小論文指導を含むアウトプットの指導を、学校としてどのように系統立てて行うか。
		教科書および参考書等を活用し、読解に必要な概念や語彙を身につけさせる。	紙媒体の教材に加え、画像・映像等をICTを活用して紹介し、読解に必要な概念や語彙を身につけさせることができた。	A	
	受験に対応できる学力を涵養する。	授業内容を精選し、論理的思考力に裏付けられた応用力を身につけ、多様化する入試に対応する力を培う。	多様な分野の文章に触れさせ、要約・記述等の訓練を行い、入試に対応する力の育成を図った。	A	
		新傾向に対応した問題演習を反復し、ICTを活用しながら実践的な国語力を伸ばす。	問題集等を活用し、新傾向に対応した演習を繰り返して行った。ICTによる双方向の活用は不十分であった。	B	
		新傾向に対応した問題演習を反復し、ICTを活用しながら実践的な国語力を伸ばす。	自分の意見を文章化させたり、個人・グループによるプレゼンテーションを行わせたりして、表現力の涵養に努めた。	B	
	小論文を書く力を育成する。	様々な文章を批判的に読むことで、思考力を養う。論理的な思考をもとに、的確に表現する方法を身につけさせる。	意見文の作成やグループでの意見交換など、筆者の思考を読みとるだけでなく、様々なとらえ方や考え方があったことを、授業で実践できた。	A	
家庭学習習慣の定着を図る。	自学に対応した課題を実施し、物事を深く探求する力を養う。	毎週末取り組ませる課題を精選し、自学による探究心を養った。	A		
地歴公民	学力の向上を図る。	受験学力養成のため定期試験を工夫し、解説を通して理解を深めさせる。また、職員自らが受験問題に当たり、傾向や難易度を把握する。	新課程の完成年度にあたり、新科目入試を想定した指導を行った。特に定期テストでは、各科目で思考力の育成を図るための問題作成に尽力した。また、職員自らが共通テスト、国公立・私立大学の入試問題に当たり、出題傾向の変化を把握するよう努めた。	A	A 今年度は新課程の完成年度であった。今年度の入試結果について分析を行い、課題が見つかった科目については引き続き修正を図りたい。現状として、授業時間確保や進度の改善などが最大の課題である。旧課程と比して、新課程は探究的な学びの充実が強く求められている。引き続き、生徒が主体的に学びを展開するための、授業内容の精選や工夫を行っていきたい。
		生徒の希望や状況に応じた課題を示し、ICTを活用しながら個別の指導を行う。	毎時、電子黒板を使用しての授業、生徒用個人端末の活用、Google for Educationの各種ツールを組み合わせることによって、積極的にICTを活用する取り組みを行った。	A	
	家庭学習習慣の定着を図る。	効果的な課題提示を工夫・実践し、家庭学習の定着を図る。	学年に応じて、他教科とのバランスを図りながら、適切な量の課題を設定することができた。基礎的内容の定着を図るための効果的な家庭学習の計画を提示し、地歴公民科の科目へ意欲的に取りくむことができたよう働きかけた。	B	
	現代社会の諸問題との関連性を考えさせる。	資料やデータを多角的に分析して、視野の拡大や異なる考えに対する柔軟性を涵養する。	2学年の必修科目である「公共」を中心に、他科目も含めて現代社会の諸問題を考察する視野を養成することに努めた。多角的な視点で物事を考察できるように、より効果的な資料活用を行った。	A	
主権者教育を授業の中に取り入れ、生徒の主体的、実践的態度を育成する。		租税や選挙制度、法律など多く問題を授業を通じて考えることができた。主に「公共」や「政治経済」の授業が中心であるが、積極的に他科目でも関連する場面を設定し、主体的な態度を育成することに努めた。	A		
数学	学力の向上。 （基礎・基本的な知識・技能の確実な修得／思考力・応用力の育成）	生徒の実態に応じた指導計画と指導内容・方法の工夫改善を図る。	『「個別最適な学び」と『協働的な学び』の一体的な充実』を実現する学習指導および研究等に取り組むことが出来た。	A	A （1）今後、遠隔授業等の取り組みが進む中で、より充実した学習活動となるよう、指導方法・環境づくり等について研究していく。 （2）定期考査の頻度の縮小に伴い、課題確認テスト（夏休み）や単元テストの実施を検討し、信頼性と妥当性のある学習評価となるよう引き続き研究していく。 （3）数学Ⅲにおける習熟度別指導の充実を図る。 （4）生徒がICTを使う場面の設定について引き続き研究していく。 （5）学年教材費の予算、教科書選定事務、教科書の早期使用事務、教科書の消耗品の管理等について、引き続き、随学年へ作業手順の継承を図る。
		教科書準拠問題集や小テスト等を活用して、基礎・基本の確実な定着を図る。	問題集の取り組み状況や小テストの結果を用いることにより、観点別学習状況の評価をより充実させることが出来た。	A	
		問題演習の時間を十分に確保し、入試問題に対応できる論理的思考力・応用力を涵養する。	普段の授業において講義と演習のそれぞれの場面にメリハリをつけるとともに、また一方で、外部模試の活用により、生徒がしっかりと考える時間を確保することが出来た。	A	
	課外（早朝・放課後）や添削等を実施し、個に応じた指導・支援の充実を図る。	定期的な課外・ニーズに応じた課外の実施および自由提出の添削課題の設置等により、「個別最適な学び」を推進することができた。	A		
	表現力・論理力の育成。	言語環境を整え、ICTを活用しながら活動の充実を図る。	連絡板・教材倉庫として Google Classroom を使い、学習環境の充実を図ることが出来た。	A	
家庭学習習慣の確立。	定期的な課題の提出を課すとともに、点検及び事後指導を徹底する。	各学年の生徒の実態・発達段階に応じて、授業と連動した課題となるよう提出課題の内容・頻度等を設定するとともに、定期考査等では測れないような生徒の学習への取り組みを見ることができた。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度（学期）への主な課題
理科	学力の向上。	基礎的な知識を確実に習得し、さらに応用的な内容についてもしっかりと理解できるように授業を展開し、学力向上を図る。	授業プリントを活用して学習内容を焦点化したり、ペアやグループでの言語活動や小テストなどを通じた評価と指導の一体化を図ることで、基礎・基本と応用のバランスを取りながら学力を向上させることができた。	A	次年度も生徒の興味・関心及び理解度の向上を目指して、観察・実験の積極的な実施を図りたい。授業中での言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成し、自ら考える姿勢と基礎学力のさらなる定着を実現したい。
	実験・観察を通して自然に対する関心や探究心を高める。	共通テストや個別試験等に出題された実験内容を、各科目で検討して考察方法などを理解させるとともに、授業内での実験・観察を通して自然観を身につけさせる。	各科目・単元の特性や生徒の実態やニーズに応じて、知識や思考力の育成のためにどうしても必要な問題演習の時間とのバランスを考えながら、効果的なタイミングで観察・実験を行うことができた。	B	
	家庭学習の習慣化。	定期的な課題を提供し、自学自習による課題提出を通して、ICTを活用しながら家庭学習の習慣化を図る。	生徒の自学自習を推奨しながらも、効果的な学習方法の提案となるような課題内容と頻度で課題の提供をすることができた。Google Classroomを活用することができた。	A	
	入試制度の研究。	共通テストに対応できる学力を身につけさせるために、入試制度の研究を進める。	入試制度についての情報交換や、模試の分析・共有を適切なタイミングで行うことができた。	B	
保健体育	健康安全について理解を深め日常生活で生かせるようにする。	・ICTを活用した視聴覚教材・資料等を効果的に活用し、学習の理解度を高める。 ・グループワークを取り入れ、言語活動を活発にさせる。	保健ではスライドや視聴覚教材を利用して、興味関心を高め、理解を促進した。保健や体育の授業中にペアワーク、グループワークを通じて、自分の考えをまとめたり、他者の意見を取り入れて合意形成を図ることが出来た。	A	次年度も生徒の興味関心や理解度を深めるために、ICTを活用する。グループワークを通じて、知識を活用し思考力、判断力を高め、他者と協力することによって達成感を味わわせる。体力テストにおいて自己の体力を確認し、保健や体育の授業や他教科の分野などの知識を活用して、生徒自身が体力を高める方法がわかり、計画、実践できるようにする。技能を伸ばすことで自尊感情を育て、積極的に関わろうとする態度を育てる。ICTを活用して、自ら調べたり、修正に活用したり、発表ができるようになる。
	体力の向上を図る。	体力テストの結果から自己の体力を把握させ、体力の向上を目指し年間を通して継続的に体力トレーニングを行う。	高校生活で体力を向上して活動の基盤を作ることが出来ている。	A	
	運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	・基礎的な技能を学ぶなかで課題を設定させ、練習に取り組みゲームを楽しむ。 ・ICTを活用するなど、お互いに教えあう活動を取り入れ、助け合いながら運動技能向上を図る。	体育科全体で設定したスキルテストに取り組むことで技術を伸ばしつつ、ゲームでの活用を方法を学び仲間と協力する楽しさを味わうことができた。動きを動画やデータを活用して理解を深めたり、ダンスでは動画で撮影し、修正するなどの活動を通じて協力することや技能の向上に効果があった。	A	
芸術	学びの意義を実感できる学習活動の充実。	美的情操を培う各科目における教材、指導方法の精選。	どの教科においても生徒の状況に合わせた教材・指導方法を工夫し行うことができた。芸術として各科目をとらえ、美しい表現を考える学習活動ができた。	A	来年度も鑑賞に言語活動を取り入れ、よりよい表現方法につながるよう、考える授業展開・指導方法をさらに工夫していく。ICTをどの場面で取り入れたら効果的かを考え、よりよい指導方法を研究していく。
	表現と鑑賞の能力を高める。	ICTを活用しながら鑑賞授業を充実させ、鑑賞で得た知識を表現に生かす有機的に関連付けながら、両面の学習活動を進行し、芸術表現に必要な技能を身につけさせる。	鑑賞授業にICT活用を取り入れ、鑑賞活動を活発にし、生徒の表現に生かす学習活動ができた。鑑賞活動から芸術表現に繋げる技能を身につけさせる学習展開ができた。	A	
	芸術的感性と言語能力の向上。	生徒同士で積極的に意見を交換する場面を設定し、活発な言語活動を行う。感性を高めあい、お互いに創意工夫しよりよいものを創る姿勢を育む。	ペアワークやグループワークを取り入れ、鑑賞活動を中心に積極的に意見を交換する場面を設定することができた。言語活動を行うことでよりよいものを作る姿勢がみられた。	A	
教科 英語	4技能の習得を図りながら学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた指導計画の改善と工夫を図る。	生徒の学習状況に配慮しながら、活動の進め方等を工夫して、指導法改善に努めた。	A	次年度も4技能育成を目指して、指導法改善に努めたい。また、授業における活動を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を育成したい。近年、自主学習の習慣が身につけていない生徒が増えている傾向が見られるため、1年生への初期指導に力を入れること、学習が不十分な生徒が自発的に学習するような指導をすることが挙げられる。
		大学入学共通テストに対応するための技能を育成する工夫を図る。	左記の目標に適した教材を精選し、適切な時期に取り組みさせることで技能育成を図った。	A	
		授業内のコミュニケーション活動を充実させる。	ペアワークやグループワークを取り入れ、生徒間での双方向のやり取りを積極的に取り入れた。	A	
		家庭学習、休業中の課題にサイドリーダー等を活用して多読の指導を行う。教材を精選し、様々な話題に触れさせることで視野の拡大に努める。	精選した教材を使用することで、多読及び精読に関する英語力の向上が見られた。様々な話題に触れ、英文を読む上で必要となる背景知識の習得にも役立った。	B	
		小テスト・調査等を利用して語彙・文法・構文の定着を図り、表現力を高める一助とする。	計画的な小テストの実施により、語彙力や文法力等の基礎力向上を図った。	A	
		英検等の資格検定にも積極的に取り組ませ、意識を高める。	入学当初から英検を意識した指導を継続して行い、授業内でも過去問等に触れさせ、積極的な受験を促した。	A	
		授業におけるICT活用方法を模索する。	教材の効果的な提示に活用するほか、提出・発表準備等に活用した。	B	
	家庭学習習慣の定着。	学習課題の提出・点検及び授業の予習の徹底を図る。	学習課題の提出・点検については、概ね徹底できた。予習については、年度当初に集中して行った。	A	
		学習が不十分な生徒については補習等に対応する。	習熟度別の課外等に対応したほか、小テストの追テストを行った。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度(学期)への主な課題	
家庭	自立した生活者に必要な基礎的・基本的な知識と技能を育成する。	実験や実習、観察や調査など実践的・体験的な学習活動を計画的に実施する。	各単元で計画的に実験や実習、観察や調査を実施した。	A	(1) 生涯を見通して生活を創造する資質・能力を効果的に育成するために、他の教科と連携し、教科横断的な授業を行なっていきたい。 (2) アカデミックスキルを育成するために、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する学習活動を増やしていきたい。	
		単元ごとの確認テストや技能試験を計画的に実施する。	食分野・被服分野で技能テストを実施。単元ごとの確認テストはできなかったが、定期テストを実施した。	A		
	生涯を見通し、世界に目を向け、生活上の課題を解決するための実践力を育成する。	生徒がICTを活用しながら主体的・対話的に学習する場を効果的に設定する。	学習者用端末を使って取り組む課題の充実を図った。	A		
生徒が考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する場を効果的に設定する。		ペーパーワーク、グループワーク、レポート発表、スライド発表、実験・実習活動など、さまざまな活動を導入し、言語活動の充実に努めた。	A			
情報	様々な人々と協働し、生活を主体的に創造しようとする態度を育成する。	生徒が家族や地域社会の方々と協働し、家庭や地域社会をより良くするための活動を主体的に実践できるような環境を整える。	家庭科の授業や学校家庭クラブ活動を通して地域の方と協働し、生活を主体的に創造する態度を養う活動を行った。地域の方を講師として招聘し、和菓子作り体験講座、子育て理解教育講座、着装講習会、お魚さばき方教室を実施。生徒が地域に興味を持ち、地域資源を生かしながら生活をよりよくするための実践的な活動ができる環境を整えた。	A		(1) 1年生のライフイズテックレッスンを続ける。 (2) 1年生の授業では演習、実習を増やす。 (3) タブレットを使う機会を設ける。 (4) 3年生の情報探求の授業の進め方を検討する。
		情報モラルと情報に対する自己責任の育成を図る。	教科書や情報モラル副読本、新聞記事やネット上のニュース等を教材にして、情報モラル、情報セキュリティ等、情報社会において求められる基本的な心構えを身につけさせる。	情報モラルの観点からスマートフォンの使い方やマナーについては、授業中に最低限のことはやった。携帯電話教室などを生徒指導部などを通してやってほしい。		
	情報を主体的に活用する能力を育成する。	コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	タブレットを使い、探求の資料収集やまとめを作ることができた。パソコン室にもwifiが通ったりタブレットが使えるようになった。	A		
各種ソフトを使用しながら、ICT機器をコミュニケーションツールとして活用する能力の育成を図る。		1年生の情報では、ライフイズテックレッスンを採用することで、効率よく授業を進められた。ただし実習はほとんどできなかった。	A			
教務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	学習指導要領を適正に運用するとともに、本校の特色を生かした教育課程の実現に向けた検証・改定を行う。	現行の学習指導要領を適正に運用するとともに、新学習指導要領に基づく本校の特色を生かした新しい教育課程(選択科目「倫理」の導入等)を編成した。	A	(1) 指導と評価の一体化をふまえた観点別学習状況の評価に即した授業改善の取り組みを継続させることが不可欠である。授業改善チームと連携し、教職員一丸となった取り組みを行ってきたい。 (2) 授業におけるICT機器および環境の活用を促進を、さらに具体的・実践的に進めて行く体制を徹底したい。他校や先行事例についての情報収集や、生成AI等の最新の知見の導入についても取り組んでいきたい。 (3) 教育課程については、新制度による入試等の動向に鑑み、進路指導部や学年とともに現状の検証を十分に行い、必要に応じて柔軟に形を変えていくことが必要である。 (4) 校務の効率化が多方面で進行している中で、さらに現状を精査し、無理なく働きやすい環境の構築を目指す必要がある。	
		教員相互の授業公開等を通して、授業力の向上に努めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業への改善を図る。	教員相互の授業公開、教科会等を通して、授業力の向上に努めた。ICT機器やひとり一台端末等を活用し、新学習指導要領に対応できるような授業への改善を図った。	B		
		各学年、各教科との連絡を密にし、授業時間の確保に努める。	学校行事等の確認調整を行い、授業時間確保に努めた。	A		
		各教科において年間指導計画を作成し、その活用を図る。	年間指導計画にもとづいた、指導計画の徹底を促した。	A		
		探究的な学びを促進する教育課程について研究を行い、ICTを活用しながら各学年と連携して実施する。	探究部と連携しながら検討を行った。	A		
	適切な行事計画を作成し、教育活動の円滑な実施に努める。	人権教育や特別支援教育に関する啓発を推進する。	職員研修等を実施し、職員の意識向上に努めた。	A		
		学習と部活動・学校行事とのバランスを考慮し、学校行事の精選を進め、土曜課外を含めて教育効果の高い年間行事計画を作成する。	各分掌・学年と企画調整を密に行い、年間行事計画を適宜修正した。	B		
		学校評価の結果から問題点を検証し、より良い教育活動の改善を図る。	学校評価アンケートの結果を共有し、教育活動の改善に反映させた。	B		
		計画的・広域的な広報活動を推進する。	中学生対象の学校説明会において、動画等を活用し、中学生・保護者にわかりやすく充実した説明会を実施する。	本校生徒による説明を中心とした内容にあらため、参加者にとってより身近でわかりやすい構成とした。		A
			いばらき教育の日の公開授業や各種説明会を通じて、教育内容の広報に努める。	併せてCラーニングおよびホームページによる発信も積極的に行った。		B
事務処理の効率化を図る。	情報部と連携し、校務運営システムを適切に活用し、成績処理、成績一覧表・通知票等の処理を円滑かつ確実に行う。	入力にあたっての確認・点検を徹底した。また、個人情報等の取り扱いへの注意喚起を徹底した。	B			
	奨学金等に関する広報活動・事務処理を的確に行う。	Cラーニングでの発信も含め、迅速な周知に努めた。また、事務処理が遺漏なく行われるよう、細心の注意を払って臨んだ。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度（学期）への主な課題
進路指導	個々の生徒の能力・適性にに応じた進路指導を通して、一人ひとりの生徒の進路希望の実現を図る。	進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の現況を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて、各学年に対して適切な進路・学習指導をサポートする。	個人面談等を通して進路希望や意識の把握を行うことができた。構造的な問題についても考えることができた。	A	<p>(1) 年内入試の増加や入試方法の多様化に対して、対応を研究していかなければならない。</p> <p>(2) 先生方の研修意欲の向上を図る必要がある。</p> <p>(3) 受身な態度での学習や進路選択から、主体的な態度に変わるよう働きかけていく必要がある。</p> <p>(4) 進路指導技術の継承を図り、標準化を目指すしていくことが求められる。</p>
		個々の生徒の進路希望や能力を把握して適切な進路指導につなげられるよう、時期に応じた個別面談・指導の実施を促す。	進路希望に応じた適切な指導を展開することができた。	A	
		公開講座やオープンキャンパス等の情報を提供して参加を促し、大学や学問研究に対する早期の意識付けを行う。	各種講座に積極的に参加することができた。	A	
	学年との連携協力の下、進路に関する行事を計画・実施し、生徒の進路意識の高揚とキャリア教育の推進を図る。	3年間を見通した行事を計画し、「キャリアガイダンス」、「ワンデーカレッジ」等の進路関連行事を有意義なものとし、キャリア教育を推進する。	将来を考えるきっかけを提供することができた。特に教員志望者に対してはチャレンジプロジェクトが有効であった。	A	
		生徒・保護者対象の進路講演会を適切な時期に実施し、ICTを活用しながら最新の有用な進路情報を提供する。	w e bを活用し、利便性の向上を図ることができた。	A	
	生徒一人ひとりの学力の伸長を図るとともに、学年との連携協力の下、入試や模試の分析を行い、適切な進路情報を提供する。	「進路ナビゲーター」や「進路便り」を発行し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	内容を見直し、有用なコンテンツの充実と不要ものの合理化を図った。	A	
		多様な入試制度に対応するために、面接・小論文等の対策について学年を越えた指導を充実させる。	先生方の協力を得て、学年を中心に指導することができた。	A	
		家庭学習時間の確保のため、各学年や各校務分掌等との連携を図りながら方策を検討する。	課題・宿題の時期と量については検討の余地がある。	B	
		各学年と連携しながら課外授業（平日・土曜日・長期休業中等）、模擬試験を計画・実施して、一層の学力向上を図る。	学年・教科を中心に設定し、状況に応じた課外授業を展開することができた。	A	
		多様な入試制度を整理・分析し、生徒との面談に活用できる適切な進路情報を提供する。	入試方法の多様化に対応することはできたが、やや後手に回ってしまった感は否めない。	B	
		入試結果・模試結果を多面的に分析し、各学年や各教科の学習指導・進路指導の改善に寄与する。	構造的な課題についてはさらに分析・改善が必要である。	B	
		各予備校等の教員対象の授業・研修情報を提供し、教員の授業力、受験指導力の向上に寄与する。	3学年担当者を中心に研鑽できた。	A	
		教員対象の進路研修会を実施し、今後の入試制度の変化に対応するために教職員全体で研究を進める。	外部での研究会にも積極的な参加が求められる。	B	
高大接続改革及び大学入学共通テスト等に関する研究を継続し、保護者・生徒、教職員への情報提供を適宜行う。	参加可能な限りは研究会に参加し、各学年に情報提供できた。	A			
生徒指導	規律ある生活態度や社会規範を順守する態度を育てる指導を、全教職員の共通理解のもとで推進する。	HRや特別活動、学校行事、授業等様々な場面において、挨拶と身だしなみを意識して指導し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	登校指導等を通して挨拶運動や身だしなみの指導を行った。	B	<p>(1) 挨拶運動や着こなしの強化については、引き続き継続し、規律ある生活を送れるよう指導していく。</p> <p>(2) 不審者被害件数は依然として多いので、土浦警察署生活安全課と連携を密にしていく。</p> <p>(3) カウンセリングの年間実施回数を維持し、生徒に寄り添った支援を継続する。</p>
		着こなし強化週間やさわやかマナーアップ運動等を通して、その意義を十分理解させ、生徒自ら規範意識の向上を図れるようにする。	さわやかマナーアップ運動や着こなし強化週間を通して規範意識を高めることができた。	A	
	安全への意識を高め指導を推進する。	校内の決まり事や公共マナーが守られているか、常にチェックする意識を持つ。	外部の方より公共マナーに関する指摘をいただいた。	B	
	教育相談体制の充実を図る。	交通安全週間、長期休業明け交通安全指導時には、改めて交通安全の意識を持たせるように努める。	交通安全講話を実施した。交通事故被害も減少している。	A	
		警察や関係機関との連携を密にし、不審者情報や交通事故情報等を迅速に提供する。また地域の方々から信頼を得られるように交通安全及び防犯意識を高める。	土浦警察署生活安全課との連携を密に情報交換をすることができた。	A	
		カウンセラーや環境保健部と連携し、生徒・保護者・教職員の要望を反映しカウンセリング活動の充実を図る。	各学年担当者と情報共有をしながら、カウンセリング活動を充実させることができた。	A	
		ICTを活用して各学年からの生徒指導上の問題点や意見をとりまとめ、生徒指導の充実を図る。	Formsを活用し、学校生活アンケートや自動車免許取得願をデータ化している。	A	
・研修会や情報交換会の内容など生徒指導に関する内容を提供する。 ・携帯電話・インターネットの安全な利用について周知させる。	休業前後の生徒指導部講話で「闇バイト」の危険性の注意喚起を行った。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	生徒の豊かで、充実した高校生活のために、以下の事項を学年や他分掌と協力して実施する。 今後の部活動のあり方を検討する。	運動部活動の地域移行が進む中で、それに対応できる環境を整えておく。また、生徒や顧問にとってより良い今後の部活動のあり方を検討していく。	新たな部活動運営方針に基づき、各顧問がより良い部活動の在り方を考えることができた。	A	(1) 部活動運営方針の改定に基づき、まだまだ検討していく必要がある。 (2) 部活の予算作成に関してより良い決定方法を検討していく。 (3) 部室回りの清掃や活動場所の清掃、部室の管理など今後も検討していきたい。 (4) 部活動の成果の公開等を積極的に取り組んでいきたい。 (5) 各行事の検討や運営を生徒会役員、執行部等が中心で行っていただけるように、話し合いを充実させていく。
		部活動環境の改善に向けて、各部からの要望を集約し、予算要求をしていく。	受益者負担を考慮し予算作成方法を検討した。さらに、各部からの要望を検討した。	B	
		部活動の学校外指導者を積極的に活用出来るように要望は続けていく。	昨年度同様活用することができた。	A	
		各部の顧問と協力して、部室の管理や清掃の徹底を図る。	部室回り清掃分担表を作成し実施することができた。年二回の一斉清掃を実施した。	A	
	HR活動の充実。	充実したHR活動が実施できるよう、各学年との協力関係を築いていく。	各学年職員と協力して実施し、キャリア力育成に努めた。	B	
		HRにおいて「キャリア・パスポート」を活用した記録を用いた話し合いや意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。	各学年職員と協力して実施し、キャリア力育成に努めた。	B	
	特別活動の記録や広報活動の充実を図る。	体育館及び他の施設の使用の調整を図る。	利用するクラスがほとんどいなかった。	B	
		壮行会・伝達表彰等を通して、生徒の活動の成果を積極的に発信していく。	オンラインという新しい形が定着し実施できた。	A	
		部活動や行事の記録及び写真を保存し、広報活動や今後の活動に役立てる。	各行事でPTAの広報係等と連携写真を残すことができた。	A	
		生徒会誌の記事の内容の充実を図る。	生徒会誌を発行することができた。	A	
	特活行事の運営方式・日程・内容等の検討を行う。	部活動の活動状況や成果をホームページ等で積極的に公開していく。	部活動の活動状況、成果の掲示が少なかった。	B	
		各種行事の日程や実施方法は随時検討し、より充実した学校行事を目指す。	行事の検討や実施方法について、生徒会役員や執行部との話し合いを繰り返し行うことができた。また、行事のしおり等をクラウド上で見られるようにした。	A	
定期的に生徒会役員との打ち合わせを実施し、生徒会活動の活性化を図るとともに、行事の企画力の養成を図る。		行事の検討や実施方法について、生徒会役員や執行部との話し合いを繰り返し行うことができた。また、行事のしおり等をクラウド上で見られるようにした。	A		
生徒会活動の年間計画を作成し、ICTを活用しながら、より充実した内容とするための方策を講じる。		行事の検討や実施方法について、生徒会役員や執行部との話し合いを繰り返し行うことができた。また、行事のしおり等をクラウド上で見られるようにした。	A		
図書館	図書館の利用促進と委員会活動の充実を図る。	図書を充実させる。	月1回は新刊本が入荷できるように努力した。特に探究に活用できる本や進路に関する本を	A	図書委員の活動を活発に行い、図書館の利用を推進する。また、毎年蔵書点検を行い、所蔵書籍の管理体制を整えていきたい。更に、図書館の学習センターとしての機能を高め、「探究学習」を行うことのできる図書館づくりをしたい。
		生徒による委員会活動を活性化し、学校図書館運営に主体的に参加させる。	生徒だけで活動することは難しいが、カウンター業務をはじめ、ポップ・図書館だより・文化祭・研修会など積極的に活動できた	A	
	図書館の機能充実を図る。	土浦市立図書館との連携を強化する。	土浦市図書館のロフトにポップの展示を協力した。また、秋には「歌って♪おはなしかい」の絵本の読み聞かせのイベントに参加した	A	
		ICTを活用しながら「探究活動」を行うことができる図書館にする。	図書館が狭いことと、モニターが小さいので、授業の利用が少ない。	B	
館内の環境整備を図る。	・本の整理整頓 ・本の廃棄 ・蔵書点検	倉庫の整理も終了し、本年度は蔵書点検も実施できた。不明本がたくさんあるので、その処理と廃棄本の整理を来年度にも継続したい。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度(学期)への主な課題
環境保健	学習環境の整備。	清掃徹底週間を適宜実施し、特にトイレと手洗い場の清掃徹底を図る。	・清掃手順をまとめたものを掲示し、清掃のレベルをそろえることを目指した。 ・清掃週間の設定と放送、具体的な強化箇所ができた。	A	<p>(1) 備品の発注の時期を大掃除の前に届くように工夫する。また、扇風機の在庫管理をする。</p> <p>(2) あゆな祭のごみ担当を実行委員会できないか検討。</p> <p>(3) 環境を整えることで感染症を防ぐこと、学習効率アップにもつながるので季節に合わせた教室の環境づくりにむけた生徒への指導や教職員への協力をはかる。</p> <p>(4) 健康診断について円滑な実施ができるよう保健委員会の生徒と今後も打ち合わせをしていきたい。特に身体測定の実施方法については検討し、来年度円滑な実施ができるようにしていく必要がある。</p> <p>(5) 「不審者対策の訓練も必要ではないか」という意見もある。</p>
		教室の空気環境改善のため、天窓+対角線上の窓の開放と壁掛け扇風機による空気の攪拌を促す。	夏場の環境衛生検査ではCO ₂ の基準値が測定したクラスで高くなっていった。その時期に感染症も校内で流行した。	B	
		エアコン、ストーブの使用上の注意事項を守るよう指導する。	安全委員を中心に、クラスで換気や安全な使用ができるよう指導した。	A	
	疾病予防と健康管理能力の育成。	疾病予防教育の充実と、欠席状況を迅速に把握し、ICTを活用しながら感染症蔓延防止に取り組む。(健康チェックの入力の徹底)	疾病予防にむけ保健だよりをC-learningで配信しているがあまり閲覧数がよくない。 欠席状況を管理職と共有しながら感染症蔓延防止に努めたが、結果的に感染速度が速く感染症予防の点でもう少し早く生徒に対する指導や感染対策に向けた環境づくりができたのではないか。	B	
		感染症対策をしながら、各種検診・検査を合理的かつ円滑な進捗で行えるよう工夫する。	環境保健部内及び保健委員と事前打ち合わせの時間をとり円滑な実施ができた。	A	
		保健室利用状況の円滑な伝達。	来室記録を保健日誌にまとめ、気になる生徒については担任や学年主任へ情報共有を行い、組織的な対応ができるように努めた。	A	
		1年生に対する歯の健康指導と性教育を充実させる。(感染予防のため、オンラインの利用も検討する。)	歯の健康指導は昨年引き続き歯科衛生士講話を実施した。性教育講話についてもオンラインで行い、感染予防に努めた。	A	
	防災意識の向上と地域との連携。	避難経路を年度初めに周知徹底する。また、改善すべき点を検討し、見直す。	昨年の改善箇所を確認し、見直した。	A	
		避難態度を一層向上させ、安全かつ迅速な避難誘導方法を工夫する。	避難訓練ではどのクラスも10分以内の迅速なできた。	A	
		避難訓練に於いて、感染症対策をしながら、生徒と周辺住民とが協力し合える訓練形態を工夫する。	今回、地域住民の参加はなかったが、消防署と打ち合わせをし、消火体験も良くなった。	A	
		職員緊急連絡網を随時更新する。	4月に更新したが、個人情報の観点から今後のあり方を検討してはどうか。	A	
	渉外	家庭、地域、学校との協力体制をさらに強化する。	P T A評議員の活動を活性化し、ICTを活用しながら、生徒指導部と連携して、校外指導を実施する。 土浦市高P連と連携し、早朝街頭指導、年末街頭指導へ積極的に参加する。	A A	
保護者に学校の情報を積極的に提供し、教育活動への理解と協力を図る。		P T A総会への出席者数を増加させる。 支部会・研修視察等のP T A主催行事の充実を図り、参加者を増加させる。 P T A評議員を実行委員として、あゆな祭のバザーへ保護者の積極的な参加を図る。	A A C		
尚綱同窓会、P T A O B会に本校の情報を積極的に提供し、学校への関心を高め、教育活動を積極的な後援の推進を図る。		土浦二高P T A広報紙「であい」を年2回発行し、本校の教育活動を良く理解し、積極的な後援の推進を図る。 尚綱同窓会及びP T A O B会と連携を密にし、積極的に学校への後援体制の推進を図る。	A B		
情報発信の充実。		ホームページの充実と迅速な更新に努め、広く情報を発信する。	A		
校務支援システムの安定した運用。		・教務部との連携を図り、校務支援システムの円滑な運用を行う。 ・校内ネットワークの安定した運用管理と保守を行う。	A		
情報	校内ネットワークの整備とセキュリティ管理。	・個人情報の保護と情報管理の徹底を図り、セキュリティ向上に努める。 ・情報機器の管理と整備を進める。	B		
	学習端末の導入活用。	・電子黒板等ICTの活用補助。 ・新1年生から導入の学習端末の活用補助。	A		
	情報発信の充実。	・ホームページの可視性を高めるため、サイトツリーを整理した。 ・各月の担当者を中心に更新を行うことで、ホームページ更新作業手順の継承にも寄与した。	A		
	校務支援システムの安定した運用。	・観点別学習状況の評価と評定との齟齬について、教務部からの依頼を受け、チェックの機械化を図ることができた。 ・指導要録「総合所見及び指導上参考となる諸事項」から、調査書「指導上参考となる諸事項」執筆のたたき台を生成するのに、機械化を図ることができた。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度（学期）への主な課題
探 究	継続的な指導計画の作成。	土浦二高や地域の実態に応じた、3年間を見通した継続的な指導計画を作る。	今年度で新課程3年間の計画を実行した。各時間の細案を生徒の実態に応じて担当者が作成し、来年度につなげるように記録を残した。	A	2年生探究実践のアドバイザーのあり方を変更する予定である。探究学習の面白さについて生徒の意識を改善するために講演会を予定している。
	組織的な指導体制作り。	生徒が主体的・協働的に探究活動を行えるよう、全教科職員による協働体制作りを目指す。	2学年探究実践でのアドバイザーを全職員に分担した。研修会を実施し、探究学習に関する全職員の理解を促進した。	A	
	探究活動の適切な評価と表現活動。	言語活動や学習状況の観察による、学習の過程を日常的に評価するとともに、活動の過程や成果のプレゼンテーション等、表現の機会を作り、交流を通じた対話的な学びを推進する。	教員による各時間ごとの評価を行ったり、クラスルームを利用した担当者との連携状況に対するやり取りを行っている。中間発表やミニ探究の発表会などにおいて相互評価を行っている。	A	
事 務	施設設備の安全確保と学習環境の整備。	・校舎内外の巡回を行い施設設備の使用目的、使用状況を多面的に把握して、教育環境の適正な整備を行う。	今年度普通教室照明をLEDに交換し、授業中の蛍光灯切れをなくした。故障・破損に対しても速やかに対応した。	B	LED化に向けて、特別教室などに今後順次交換していく。また老朽化している部分についても順次予算を確保していく。
	予算の効率的・効果的な執行。	・適正な学校運営のため、管理職や教職員等と連携を図、ICTを活用しながら学校予算の効率的・効果的な執行を行う。	必要な分野に対し、効果的に予算配分し、執行を行った。不足した予算は最終補正で増額予算を獲得し、対応した。	B	
1 学年	予習、復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	学習時間調査、個人面談の実施。	個人面談や学年集会を通して、予習・授業・復習の学習サイクルの重要性を伝えることができた。また、教科担当者間でも生徒情報を共有して支援ができた。	A	A (1) 学習習慣の確立・定着と学習時間の確保 (2) きめ細やかな個別面談を通じた進路・生活指導 (3) 校外模試の有効な活用 (4) 成績層別による学習指導 (5) 様々な理由で欠席しがちな生徒とその保護者に対する精神的な支援
		適切な学習課題の提示、小テストの実施。	全体の課題の量を調整し、生徒が自ら学習計画を設定できるように工夫した。	A	
		各種課外の実施、外部英語検定、海外研修等への対策、サポート。	平常課外・長期休業中課外など、英教国を中心に精力的に実施した。	A	
	新教育課程、入試改革への対応。	主体的、協働的な「探究」を実現するICTを活用した授業づくり。	探究の時間の様々な場面においてICTを効果的に用いて活動することができた。	A	
		自分の考えを可視化し、論理的にわかりやすく伝える力の育成。	関心のあるテーマについて「問い」を立てて、読書を通して自分なりの答えをまとめ、スライド作成をした。9月にクラス発表会、学年発表会を実施することができた。	A	
		「探究」含め、あらゆる授業におけるICT（タブレット等）の積極的活用。	探究の時間だけでなく、授業やホームルーム活動でICTを積極的に活用した。	A	
	確かな職業観の育成と 適切な文理コース分け。	活動履歴の作成等、新方式の入試に対するサポート。	ベネッセ提供の新課程入試科目電子ブック等を活用し、新課程入試の科目調べを行った。探究の時間で学習したものは探究ファイルに綴じ込み、ポートフォリオとして記録を残している。	A	
		個人面談、保護者面談の充実。	個人面談を頻繁に実施し、生徒理解に努めた。また、保護者面談では綿密な情報共有を行うことができた。	A	
		各種講演会、説明会、各種課外の実施。	ベネッセによる文理選択に関する集会を実施した。また性に関する講演会やスマホ安全教室なども実施した。	A	
	交通安全指導の充実。	各種ガイダンス、セミナー、オープンキャンパス等への積極的参加の推奨。	職業観育成の一環としてキャリアガイダンスを実施した。また、医療系施設見学会やオープンキャンパスに多くの生徒が参加し、自己の将来像を考える良い機会となった。	A	
		校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。	ベネッセ模試を3回実施。河合塾全統模試を1回実施した。実施後は学年会で分析会を行い、基礎学力の向上の方策について検討した。	A	
	高校生らしい服装容儀の徹底。	服装、頭髪検査の実施、及び日々の学校生活、授業中での指導、説諭。	制服の着こなし、身なりを正す大切さや、場面に応じた言葉遣いなど、日々の学校生活で折にふれながら指導した。	A	
	規範意識の高揚と道徳的実践力の育成。	道徳の授業やHR、清掃活動等を通しての、道徳的な判断力や態度の育成。	清掃活動を通して、協同することの大切さ、勤労の価値観を学ぶことができた。	A	
交通安全指導の充実。	生徒指導部との連携による校外指導の実施。	地域の方から自転車のマナーについて苦言をいただくこともあったので、その都度各クラスでマナーを守ることの大切さを伝え、自分事として考えられるように指導した。	A		
	HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。	交通講話を通して、危険を回避して安全に生活することの重要性を学ぶことができた。自転車の安全な利用について引き続き指導していきたい。	B		
心身の健康管理及び教育相談の充実。	SC、養護教諭、保護者等との連携強化。	様々な困難を抱えている生徒と保護者に対して、面談やカウンセリングを実施した。養護教諭やSC、SSWとの連携も含め、チームとなって支援することができた。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度（学期）への主な課題		
2 学年	既習内容の確実な定着、教科の特性に応じた適正な予習復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	個人面談の実施、小テストの実施。	クラス全員との面談を年間4～5回実施することによって個々の生徒の諸課題に対処することができた。小テストを週に1回実施し、生徒の基礎学力の定着に役立てることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習時間の確保と学習習慣の確立・定着。 (2) 適切な志望校決定と進路実現に向けた、個別面談等における効果的な指導方法。 (3) 校外模試の有効な活用。 (4) 成績層別による学習指導。 (5) 精神的理由で欠席しがちな生徒に対する支援。 		
		ICTを活用した適切な学習課題の提示。	各教科classroomを開設し、効果的に学習課題を提示することができた。	A			
		小論文指導、英語外部検定対策の継続。	小論文はガイダンスを経て小論文模試を実施し、英検については授業内でスピーキングや英作文の練習を継続的に実施することができた。	A			
		土曜課外・夏季課外の実施、充実。	土曜講座ではPスタディを積極的に活用することで、共通テスト「情報」を意識した学習を行うことができた。夏季課外では英数国を中心に模擬試験の対策などをする良い機会となった。	A			
	進路目標の具体化。	オープンキャンパスの積極的活用、探究活動の実施。	フロムページの「夢ナビ講義動画」と関連づけてオープンキャンパスへの参加を促した。また探究はグループ活動を中心に行い、生徒の主体的な活動の場とすることができた。	A			
		各種講演会・説明会・ワンデーカレッジの実施。	ワンデーカレッジや科目選択説明会、外部講師による講演会によって進路意識の向上を図ることができた。	A			
		校外模試の実施と結果分析、事後の有効活用。	校外模試の結果を学年会に取り上げ分析を行った。また、ベネッセマナビジョンを活用し、模試の目標設定から復習まで意識的に取り組ませることができた。	A			
	高校生らしい服装容儀の徹底と規範意識の高揚。	服装・頭髪検査の実施及び日常生活での注意・指導。	ほとんどの生徒は規則を守ることができたが、頭髪に対して問題となる事案が発生した。	C			
	交通安全指導の充実。	生徒指導部との連携による校外指導の実施。	生徒指導部の計画に従い、登下校指導を行った。	A			
		HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。	各クラスにおいて、担任が適宜交通安全指導を行った。	A			
	心身の健康管理。	S C、養護教諭、保護者などの連携強化。	S Cや養護教諭から生徒について貴重な情報が寄せられ、生徒に対して有効な支援を行うことができた。保護者とも連絡を密に取ることができ、生徒への理解や支援に役立てることができた。	A			
		生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。	生徒個々の問題が発生し、対応に苦慮する事案があった。時間をかけながら問題に対処した。SSWに協力いただいで問題解決する場面も多々あった。	C			
	3 学年	家庭学習時間の確保。 (平日5時間、休日10時間)	個人面談の充実（年6回以上）。	面談週間でのクラス一斉面談を3回、保護者面談前の予備面談を2回、進路に関する面談を各クラス1～2回実施できた。その都度、学習状況の確認をし、生徒に助言をすることができた。		A	<ul style="list-style-type: none"> (1) 難関大学を目指す生徒への指導の強化。 (2) 入試の多様化への対応力の強化。 (3) 模擬試験の更なる有効活用。 (4) 成績層別による学習指導。
			進路講演会、模擬試験成績分析会、進路説明会等の実施による動機付け。	個人面談や学年集会を通して、進路実現に向けて意識付けを行った。		B	
進路指導の充実。		進路希望に適した授業の充実。	後期第2回テスト以降から進路対策編成時間割で授業を行い、共通テスト出題科目の授業で、一斉に共通テスト対策演習を行った。	A			
		進路指導室、資料室、I C T環境等の活用の促進。	大学入試過去問題集（赤本）を豊富に揃え、生徒たちに利用させた。また、資料室を使い、面接指導やオンラインの学年集会の発信場所として活用した。	A			
国公立大学、難関私立大学への合格者増を目指した指導の工夫及び充実。		課外、探究活動の充実（受験対応講座の実施）。	平常課外の前期までは、成績層に合わせた課外を実施し、後期からは共通テストや私大対策など、志望に合わせた選択が可能となるよう実施した。探究活動では、データサイエンスに関する活動や進路探究としての活動を充実させることができた。	A			
		成績層別課題提示等の工夫	授業や課外、面談を通じて、成績層を意識した課題を提示し、生徒の主体的な学習へとつなげた。	B			
		校外模擬試験の実施とその有効活用。	例年同様模試を実施した。模試の結果を過年度や他校、前回と比較して、結果が振るわない場合、学年会の議題として取り上げ、対策を検討した。	A			
		小論文指導の継続	総合型・学校推薦型選抜受験者に対する直前指導が入る前に、学年の国語担当者が志望別に小論文指導を実施し、直前の指導に入るまで継続して指導することができた。	A			
最終学年にふさわしい服装容儀、挨拶の徹底。		服装、頭髪検査の実施及び日常生活における指導。	普段から学年全体で共通認識を持って指導することができた。	B			
交通安全指導の充実。		生徒指導部との連携による校外指導の実施。	L H R を使い、年度始めや長期休業前に重点的に指導を行った。	A			
心身の健康管理及び教育相談の充実。		S C、S S W、養護教諭、保護者等との連携強化。	不安を抱えている生徒や保護者に、専門の先生の力を借りて、適宜対応することができた。	A			
	生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。	生徒や保護者と密に連絡を取ることで、生徒の思わしくない兆候に対応し、学年で情報を共有することができた。	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	達成状況	評価	次年度(学期)への主な課題
いじめ防止	いじめの未然防止。	道徳以外の教科でも相互指導力・協同性・同僚性をポイントに置いた授業を実践する。	ペアワークやグループワークを通して、自己指導力及び自己有用感を育む授業を実施することができた。	A	年3回のいじめに関するアンケートをGoogleフォームで実施することができた。出てきた案件に対しては、担任だけでなく、学年、生徒指導部、管理職などチームで対処することができた。常に「いじめは必ず起こる」という認識のもと、未然防止・早期発見を心がけている。
		HR、学校行事、特別活動の場を利用し、自己存在感を養う。	文化祭やスポーツ大会などの行事を通して、一人ひとりが活躍する場を創出することができた。	A	
		生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。	面談やフランクな雑談をすることで、相談しやすい関係の構築に努めた。	A	
		情報モラル教育を推進する。	「スマホ安全教室」を活用した。	A	
	いじめの早期発見。	いじめは必ず起こるという認識のもと、生徒の観察を怠らず、決してサインを見逃さないように努める。	授業だけではなく、部活動の場でも教職員が生徒からのサインを見逃さないように努めた。	A	
		ICTを活用しながら年間3回のアンケートを実施する。	Google Formsを利用し、アンケートを実施した。	A	
		生徒や保護者が学校に相談できる関係を構築する。	夏季・冬季の面談を通して、保護者とも相談できる関係を構築できるように努めた。	A	
	いじめの早期解消。	複数の相談窓口を生徒や保護者に周知する。	SCや養護教諭から生徒についての情報を提供してもらい、共有できた。	A	
		定期的な生徒の様子等の報告会を実施する。	協議委員会時に、各学年の生徒の様子を共有した。	A	
		いじめを認知した場合の連絡系統を確認しておく。	定期的な「いじめ対策会議」の開催により、教員間の連携をとることに努めた。	A	
		いじめを認知した場合まずは実態把握に努め、速やかにケース会議を開き対応を検討する。	速やかに管理職及び関係学年と連携し、「いじめ対策会議」の開催や実態把握に努めた。	A	
		インターネットを通じて行われるいじめにも適切に対処する。	いじめに関するアンケート調査を実施した。	A	
	関係機関との連携。	保護者と密接に連絡を取り合う。	生徒に関して気になることがあれば、保護者と綿密に連絡を取り合うように努めた。	A	
		地域の協力を得ていじめの対応等をする。	学警連の会議に参加し、連携を図っている。	A	
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。	学警連の会議に参加し、連携を図っている。	A	
		学校以外の場で起きたいじめに適切に対応する。	いじめに関するアンケート調査を実施した。	A	
	教職員研修。	実践的研修を行う職員研修を設定する。	SCによる研修会を実施した。	A	
		事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。	SC及びSSWの研修会を実施し、様々な事例の研究に努めた。	A	
		インターネット環境等に関する研修を計画する。	「スマホ安全教室」を活用した。	A	
	※評価規準： A:十分達成できた B:達成できた C:普通 D:やや不十分だった E:不十分だった				